

藤沢市教育委員会臨時会（7月）会議録

日 時 2005年7月29日（金）午前9時30分
場 所 藤沢市総合防災センター6階 第1会議室

1 開 会

2 会議録署名委員の決定

3 前回会議録の確認

4 議題

(1)平成18年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採択について

国語

書写

社会（地理的分野）

社会（歴史的分野）

社会（公民的分野）

地図

数学

理科（第一分野）

理科（第二分野）

音楽（一般）

音楽（器楽合奏）

美術

保健体育

技術・家庭（技術分野）

技術・家庭（家庭分野）

英語

(2)平成18年度使用藤沢市立養護学校及び特別指導学級用教科用図書の採択について

5 閉会

出席委員

1番 小野 晴 弘
2番 數野 隆 人
3番 開沼 佳 子
4番 平岡 法 子
5番 川島 一 明

出席事務局職員

教育総務部長	林 良 雄	生涯学習部長	西 山 三 男
教育総務部担当部長	落 合 英 雄		
教育総務部参事	浅 木 良 一	生涯学習部参事	齋 藤 潔
教育総務部参事	飯 島 広 美	学校教育課主幹	桑 山 光 生
学校教育課指導主事	新屋敷 正 隆	学校教育課指導主事	飯 田 瑞 穂
学校教育課指導主事	三 森 孝 久	学校教育課指導主事	中 澤 正 子
学校教育課指導主事	吉 田 早 苗	学校教育課指導主事	高 石 佳久子
学校教育課指導主事	柚 原 章	学校教育課指導主事	上 條 茂
学校教育課指導主事	齋 藤 公 孝	学校教育課指導主事	岡 滝 男
教育文化センター指導主事	川 地 啓 文	教育文化センター研究主事	菊 池 洋 子
教育文化センター研究主事	佐々木 貴		
書 記	小 島 隆	書 記	井 出 秀 治

開沼委員長

お待ちいたしました。ただいまから藤沢市教育委員会7月臨時会を開会いたします。

はじめに、本日の会議録に署名する委員は、1番 小野委員、4番 平岡委員にお願いしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

開沼委員長

それでは、本日の会議録に署名する委員は、1番 小野委員、4番 平岡委員にお願いいたします。これより議題に入ります。

平成18年度使用 藤沢市立中学校用 教科用図書の採択について議題といたします。平成18年度使用藤沢市立中学校用教科用図書の採択について、はじめに整理しておきます。

法令によりまして、義務教育用教科書は、基本的に、採択替えから4年間は、同じ発行者のものを採択することとなっております。中学校については、平成13年度に採択替えしておりますので、本年度が採択替え、つまり選び直す年度となります。

そこで、中学校用教科用図書については、「教科書目録」の中から一種目ごと、一発行者のものを協議の上、採択することとなります。

私たち教育委員は、これまで教科書見本を常に手元に預かり、調査研究してまいりました。また、藤沢市教科用図書採択審議委員会の審議を傍聴しておりますので、その審議過程も参考として、本日、協議してまいりたいと思います。

それでは、中学校用教科用図書の採択についての協議に入ります。

協議の方法ですが、例えば、国語という教科には、国語の教科書以外に書写の教科書もあり、それぞれ選ぶことになっています。同様に社会という教科にも、社会の教科書以外に地図があり、これもそれぞれ選ぶことになっています。教科の中を分けた言い方として、種目とこれと呼んでいますので、1種目ごとに、協議していくこととします。

協議での議論が出尽くしたところで、それぞれ採択する発行者を合議で決定し、確認をもって採択するということにしたいと思いますが、ご異議ありますか。

(「異議なし」の声あり)

÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷ ÷

【国 語】

開沼委員長

それでは、国語から協議します。発行者は5者です。ご意見をお願い致します。

数野委員

全社の教科書を並べて比較しますと、審議委員会で話題になっていましたが、今回の教育出版は、従来の教科書の枠を超えた斬新で画期的な企画になっています。例えば、学年毎に各テーマを設けましたり、また、全体を3部構成にし、1部と3部が必修、2部が選択学習の形をとっています。第1部では、「読む」こと、「話す・聞く」こと、「書く」ことの3領域毎に教材をまとめており、2部では、補充と発展を、3部では言語・知識をとということで、資料集や問題集まで教科書の中に入れており、参考書のような編集の仕方です。非常に特徴的であることが挙げられます。

川島委員

確かに各者工夫されています。三省堂は、今までと同様、本編と資料編という形ですっきりしていると思います。教材を厳選している感じがします。また基本的なことを本編でしっかり押さえ、資料編では色々なジャンルの作品を扱っているので、使いやすいのではないのでしょうか。

平岡委員

私は、子どもの読書離れということが、ずっと気になっていまして、読書の扱いを見てみましたが、光村の特徴は「書く」領域の中に読書活動を入れている点です。読書紹介や読書記録など読書と結びつけたのは工夫だと思います。

開沼委員長

ただ今、平岡先生より読書についてのお話がありましたが、光村は各学年に「本の世界を広げよう」というページがあります。そこでは文学的な文章ではなくて、説明的文章が扱われているところがよいと思います。また、その後に読書案内として、カラーで多くの本の表紙写真を載せ、手短に内容を紹介し読書へ誘っています。読むことを書くことへつなぐページなど読書活動がさらに展開するような工夫が随所にみられ、とてもよくできていると思います。各学校の調査資料には、光村は、音読に適した美しい文章が多い、三年生の読書教材に手ごたえのある作品が載せられている、生き方について考えを深められるような作品が多いという意見がありました。色々なことを考えはじめの中学生には適しているのではないかと思います。

取り上げられている作品などは、委員の皆様いかがでしょうか。

平岡委員

光村は、読む領域がすばらしいと思います。色々なジャンルからバランスよく魅力ある作品が選ばれていて、これぞ国語の教科書という感じがします。中学生の時に読んでおいて欲しい名作も収録されていますし、全体的に上質で作品の粒がそろっています。

數野委員

教育出版は構成が斬新なだけでなく、作品としても新しいものが意欲的に取り入れられています。今話題になっている「ガイアシンフォニー（地球交響楽）」の監督龍村仁の「ガイアの知性」を載せるなど、進歩的です。そうかと思えば、夏目漱石の「永日小品」などの名作もあります。

しかし、文学の質と全体のバランスという点では、私は光村が優れていると思います。いみじくも平岡委員が、これぞ国語の教科書と申されましたが、私もそれに近い感じを持ちました。

川島委員

「読む」教材では三省堂もいい作品を集めています。質の高さではひけを取りませんが、本編と資料編のバランスもいいと思います。

小野委員

「読む」領域は、やはり何と云っても、国語科の中核をなすものですし、学習指導要領の中でも一番多くの時間が当てられています。また、領域の考え方とは異なりますが、話すことや書くことが、他者への発信をめざすのに対して、読むことは、最終的に自分の表現に生かすということがあるにせよ、やはり自分の中へ取り込み、蓄積とか醸成といったことが大事になります。そういう意味でも、いつまでも心に残るような魅力あふれるすぐれた作品をたくさん扱って欲しいと思いますね。

みなさんがご指摘のように光村、三省堂あたりですかねえ。

開沼委員長

光村と三省堂の意見が多くありましたが、この2者についてももう少しご意見をいただきたいと思いま

次に地理的分野の協議に入ります。発行者は6者です。ご意見をお願い致します。

平岡委員

私は、地理的分野の学習への興味・関心を高めていくという観点から考えてみたいと思います。帝国書院の教科書は、都道府県や国を調べるにあたって、そこに住む人々の生活の部分から導入されているという点で、興味がわくのではないかと思います。次に日本文教出版は、国の形を動物などにあてはめたり、都道府県パズルを用いて関心を高めていこうという工夫が見られます。

川島委員

同じ観点から申しますと、日本書籍新社については、毎時間ごとに、キャラクターを用い、その時間に学習する「問い」が示されています。どのような学習を進めていくのかがわかりやすく、生徒の興味がわくような工夫がされていると感じました。東京書籍は「一口エピソード」や「地理にアクセス」というコーナーがあり、生徒の関心を広げていくために有効と思います。

數野委員

今、キャラクターの話が出ましたが、キャラクターについては、審議会でも触れられていました。大阪書籍では手塚治虫さんの「鉄腕アトム」を登場させて、親しみやすくなっていますが、今の中学生には少し古くなってなじみが薄くなっているキャラクターではないかと思います。また、興味・関心を高めていくためには、資料の見せ方も重要な部分かと思えます。教育出版は資料や図などが大きく扱われていて見やすく、わかりやすいと感じましたし、巻末のペーパークラフトも素晴らしい発想で面白いです。

小野委員

みなさんがおっしゃたように各者とも、生徒の興味・関心を高めるためにいろいろな工夫をし、編集されていると感じます。また、切り取って用いる地図やペーパークラフトのように立体的な物などにも工夫が見られます。そういった点では6者とも優劣はつけがたいという印象を持っています。

開沼委員長

私も、生徒の興味・関心という点で、6者ともそれぞれの良さを感じます。ただ、各学校からの調査研究によりますと、帝国書院と日本書籍新社と東京書籍が各学校の実態に照らして評価を得ているということも参考にはなると思っています。さきほど、資料の扱いについてお話がありました。適切さや見やすさという観点から資料等の扱いについてご意見をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

川島委員

東京書籍は、資料と活字のバランスがよく見やすいと思えます。掲載されている資料、写真等も多く、特に資料を活用する力や多角的な見方を育てるのに適していると思えます。

平岡委員

帝国書院も、多くの資料が掲載されていて地理的なことから多面的・多角的にとらえていくのに役立つのではと思えます。また、この多くの資料が見やすくまとめてあるなあという印象を持ちました。

數野委員

先程も申しあげましたが、教育出版は資料・写真が大きく見やすい感じがします。また、審議委員会でも出ていましたので、実際に確認してみましたが、トレーシングペーパーを用いるという工夫がされています。大阪書籍は、資料の分量がとて多くなっていて、他の教科書よりページ数も豊富で、良いと思えました。

小野委員

帝国書院につきましては、様々な地図や写真や資料が豊富にのせられているなあとも感じました。

日本書籍新社や東京書籍についても同様の感想を持ちました。また、教育出版の工夫につきましても興味を持ちました。この観点でも各者、見せ方等において、いろいろな工夫がされていると考えます。

開沼委員長

これまでのところ、資料の適切さという観点からお話をうかがいましたが、さらに別の観点から協議したいと思いますが、いかがでしょうか。

數野委員

私は、教育出版も大変良いと思いますが、調査資料にも記載されています帝国書院の地域の特色のとりえ方がより適切で、また、生徒が地域調べに出かけていく際に、具体例がわかりやすく挙げられていて参考になると思います。また、要所要所に「地理の見方ポイント」という囲みのコーナーがあり生徒にとって参考になるのではと感じました。

川島委員

同じ帝国書院ですが、「プラス」こういう調べ方もやってみようというところでも、いろいろなどころから調べる視点が示されています。地域調べをする際に、調べるポイントがわかりやすく示されているのは東京書籍にも感じます。審議委員会での話にもあったように、地域的特色をとらえる視点や方法を身につけていく上で効果的ではないかと思います。

平岡委員

私も、帝国書院について今皆さんが言われたことと同様の印象を持っています。また、日本書籍新社では、地域調べの課題設定の仕方が生徒の視点に立っているなあと感じました。実際に地域調べの例として「行ってみたい県をしらべよう」で神奈川県が扱われています。県庁のある横浜市、神奈川県農産物等が取り上げられていて、身近に感じることはできるのでは、と思いました。

小野委員

学習指導要領の地理的分野の目標に「地域的特色をとらえるための視点や方法を身につけさせる」とあります。地域的特色をとらえる視点等について意見を述べたいと思います。皆さんが取り上げている帝国書院ですが、審議委員会でも話されたことですが、地域的特色をとらえる様々な視点や方法が示されています。具体的な例が示されていて生徒が学習を進めやすいのではないかと感じました。

開沼委員長

神奈川県が取り扱われているという点ですが、日本書籍新社だけでなく帝国書院も、川崎の工業地域、人口過密な都市の例として横浜市を取り上げています。審議委員会でも話がありましたので、私も見ましたが、子どもたちにとって良いのではないかと思います。

地域的特色をとらえる視点等についてご意見をうかがいました。この視点に関して、他にはよろしいでしょうか。

今までのところで多く取り上げられたのは、帝国書院、東京書籍、日本書籍新社の3者でした。この3者に限ってもう少しご意見をいただきたいと思います。

平岡委員

基礎・基本の定着に向けてという視点で見ますと、帝国書院では、「地理の技能を身につけられるコーナー」が設けてあり、地理の基本的な技能が身につけていくのに役立つのではないのでしょうか。

川島委員

私も同じように思いました。さらに、日本や世界の略図の書き方もわかりやすくなっていると思います。また、単元のまとめもわかりやすく配置されていて基礎・基本の定着に効果があるのではないかと考えられます。

はと見ますと、東京書籍、清水書院、帝国書院、扶桑社でありました。各社とも表現形は多少異なりますが、いずれも史実を知るだけに留まらず、過去のことが何らかの形で現在に繋がっている。或いは過去の人々の営みを知って、これからの社会をより良くする道筋を考えるために、また、国々や人との関わりで起こったことを考え、かつその謎解きをするですとか、過去の人々がどんな風に生きてきたかを学ぶことであるという様な点をあげています。史実から学ぶ大切さが述べられていて、いずれも評価できます。

平岡委員

私は、昨年採択した小学校の教科書もそうでしたが、本当に教科書が綺麗になったことに驚いています。歴史の教科書も目で歴史を追いかけるといった感じがしまして写真の多さ、美しさ、大きさに感心いたします。教育出版が図表や資料が見やすいなあと思いましたが、審議委員会でも話が出ていましたように、清水書院は本当に写真・図版が多いと思いました。大阪書籍は大きくて見やすく編集してあります。それだけに図版などの数は少ないようですが、これも子どもたちにとっては、よい事ではないかと思えます。帝国書院が図版を綺麗にみせるように紙の質も考えているように思います。また、図版と本文がつながるように作ってあって、とても見やすいし、使いやすいように思います。帝国書院の関連で印象をさらに言いますと、タイムスリップというコーナーが1枚の絵からその時代が考察できるということがおもしろい工夫だなと感じました。

川島委員

私も印象から述べさせていただきますが、今タイムスリップというのが出ましたが、似たようなものでは、日本文教出版の各項目にタイムトラベル学習も、目で見て資料を確認し、イメージをふくらませるように、工夫していると思えました。また、日本書籍新社は、章の始まりのページに、その時代の特色のわかる写真や絵を大きく載せていて、興味を引きましたし、扶桑社の歴史のものさしも年代を視覚的に捉えるのにいいと思えました。

視点が変わってしまいますが、東京書籍は、「わたしたち歴史探検隊」と言うコーナーで調べ学習につながるようにしているところが子どもたちに学習の指針を示している感じがします。

數野委員

調べ学習の話が出ましたが、調べ学習の資料で大事な物の一つに私は、年表があると思えます。歴史の学習において、歴史上の出来事を通してきちんと学ぶ環境を整えることは大人の責任だと感じています。歴史上の出来事を通してきちんと把握した上で、自ら調べその教訓を得ることが大切だと思います。その点で、年表の表し方が重要な一つの要素だと考えています。歴史の流れをつかみ、世界で起こった事象と比べながら日本を捉えていくように構成されている年表という視点で見ますと、すっきりして見やすい東京書籍や清水書院だと思います。使い易いと言う点では、教育出版のもので、教科書を閉じていても使える工夫はいいなあと思えます。

川島委員

私も史実から学ぶということが、大切なことと思えます。今、世の中が注目しているこの中学校の歴史教科書では、近現代史の史実で、何が真実かが問われている問題もあります。そうした背景からでしょうか、県の調査資料には、北方領土に関する記載事項等4つの事項についての調査が掲載されていました。私自身は、南京での出来事の表し方に注目してみました。南京事件について見てみますと、死者の数などについても注釈で補足してあったり、歴史的事実が諸説あると言うものもあります。

事件の名称を比較しても、「南京事件」としているのが、東京書籍、大阪書籍、教育出版、扶桑社、日本書籍新車で、日本文教出版は、「南京虐殺事件」。帝国書院は、事件を付けずに「南京大虐殺」。

清水書院は「南京大虐殺事件」としています。

いずれにしても、非戦闘員に対する殺害行為があったことを否定する教科書は全くないわけですが、一つの事実を巡っての表現方法としていろいろではあります。

このあたりが、今世間の注目になっていると思う訳なのですが、どのように評価していけば良いのでしょうか。

數野委員

私も先程申しあげましたが、川島委員がご指摘になりました歴史の事実がどのように記載されているかは気になることであります。私は、第二次世界大戦の扱い、太平洋戦争の扱いはどうかと思って、そのあたりを見ますと、名称ですが、太平洋戦争と記載しているのが、東京書籍、大阪書籍、教育出版、日本文教出版、日本書籍新社であります。太平洋戦争（アジア太平洋戦争）と記載しているのが、清水書院、帝国書院。大東亜戦争と記載しているのが扶桑社でした。

この戦争は世界大不況下で、各国が市場の獲得を目指して、経済上の争いが顕著になって起こったという時代背景があります。欧米の列強をはじめとして海外市場を拡大に獲得している国々、遅れて近代国家を形成し、まさに市場の拡大を目指そうとしている日本、イタリア、ドイツ等の国々、また、先進国家に市場とされ、植民地化された国々やされようとしている国々とのからみがあります。その様な訳ですから、太平洋戦争としている会社の多くが、注釈等で、大東亜戦争と日本政府が呼んだことや大東亜共栄圏の説明を記載しています。扶桑社は、これを中心に記載しており、注釈等で、太平洋戦争という用語についても説明していますが、各社で表現が異なっていました。

平岡委員

史実については、南京の出来事をひとつとっても、殺害を行った側と、された側、殺害があったことを戦後知らされた者など、その背負う立場でいろいろに解釈も入り、難しい問題だと思います。痛い思いをした場合も、片方が、「身体が触れただけ」ということもありますし、片方は「殴られた」ということもあります。「わざとやったのではない」いや「わざとだ」ということで、もめることもあります。こうした立場の違うそれぞれが、一つの史実を巡って、その解釈と、考え方をどのように持っているのか、その背景に何があるのかをも、分析しながら、多面的多角的に歴史を考えていけることが重要なように思えるのです。

小野委員

私は、基本的に、歴史的事象の表記方法に差異はあっても、検定を通っている教科書ですので、どれが採択されても問題ないと考えています。我々教育委員は、教科書見本が届いた5月から、これまでの間、精力的に各種目の調査研究を行い、藤沢の子どもの実態や、保護者や地域の方々、そして市民の方々の願いを把握し、また、審議委員会でも審議し答申をいただいて、この場に臨んでいるわけです。ですから、採択での協議は、歴史的分野の学習の目標や内容を学習指導要領に立ち戻って考えることが大切です。また、藤沢の子どもたちの教育にとってという視点も大切です。

そこで1つ目として、学習指導要領なのですが、目標としては、「我が国の歴史の大きな流れと各時代の特色を世界の歴史を背景に理解させ」ることが前提として重要になります。

先ほど話題になった部分の学習内容としては、「昭和初期から第二次世界大戦の終結までの我が国の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動きに着目させて、経済の混乱と社会問題の発生、軍部の台頭から戦争までの経過を理解させるとともに、戦時下の国民の生活に着目させる。また、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。」とあります。

2つ目はこうした意味で、世界大恐慌やそれに関連した農業恐慌、昭和恐慌といった、昭和初期の状

況から、都市部や農村部をはじめとした社会問題の発生、こうした問題解決として日本の選択したアジアを中心とした市場確保、軍部の台頭から戦争へと発展していく状況への教材として、藤沢の子どもにとってどうあるべきかということ、これら2つのことが、協議の柱になるだろうと認識します。

私は、基本的に、アジア・アフリカにすでに大きな市場を確保していた欧米先進諸国、あとから確保をめざした日本を含めた諸国、市場として経済的、政治的に国家としての自主決定権が失われ、支配される関係となっていた諸国等を世界の歴史の背景として理解できるよう学習し、その背景やそのそれぞれの諸国の立場に立った学習ができることが、学習指導要領にある「歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。」ことに結びつくと思います。

ただし、学習指導要領には、「内容の取扱い」で「生徒の発達段階を考慮し、抽象的で高度な内容や複雑な社会構造などに深入りすることは避けるとともに、各時代の特色を表す歴史的事象を重点的に選んで指導内容を構成することにより、細かな知識を記憶するだけの学習に陥らないようにすること。」とされており、大きく時代を把握し、多面的・多角的に考察する学習を保障することが重要であることを意識しておきたいと思います。

開沼委員

話の方向が、教科書採択の場として何を視点に話し合うかになっているようですが、小野委員がおっしゃったように、歴史分野における学習の目標、学習指導要領に立ち戻り、また、藤沢の子どもたちの教育と言う視点で、引き続きご意見をいただきたいと思います。

平岡委員

まず子どもたちが歴史の流れを教科書でつかむために、教科書をすらすらと読めることが大切なことだと思います。そして、読んだだけでおおよそ内容をつかむことができるものが良いのではないかと考えます。文章として、平易な文で簡潔に分かりやすいという点では、教育出版や東京書籍、日本書籍新社ではないかと思います。また、扶桑社は、物語風な文章で読みやすい工夫がされていると思います。

數野委員

確かに読みやすさは、教科書の大切なポイントだと思います。歴史は用語が難しいので、読みやすいようにルビが多い教育出版や清水書院の工夫も良いと思います。また、分量的には、一つの時代に偏ることなくまんべんなく適量で書かれているという点では、わたしは東京書籍が良いように思います。

川島委員

史実をどのように伝えるか、その時代を生きたものの知る事実と、教科書の編集方針とのかねあいがあるように思います。私は、その意味で、文末表現も読み手にとっては大切だと思います。「非難された」というような表現より「非難されました」というほうがやわらかく感じられます。藤沢の子どもたちには敬体で書かれた教科書をと考えます。東京書籍、大阪書籍、教育出版、帝国書院が敬体で書かれておりました。

小野委員

私は、先ほども述べましたが、史実を学ぶことは、大切とは思いますが、あまり細かい文言にこだわることなく、学習指導要領の内容にある、大きな歴史の流れをつかむことや、身近な地域の歴史を調べ、歴史の学び方を身に付けさせることに主眼をおいて、藤沢の子どもたちの実態から、教科書を見ていく必要が有るように思います。

藤沢の子どもたちは、個人差はあるものの、主体的に調べ学習をしているようです。そうすると、調べ学習について、詳しく書かれている帝国書院や東京書籍が良いように思います。

開沼委員長

調べ学習という点から意見を述べさせていただきたいと思います。確かに、歴史の流れを大きくとらえていること、自ら学ぶという観点で工夫があることなどが、歴史学習にとって大切だと思います。各社共に導入に当たる巻頭のページや特設ページに様々な創意・工夫をされており、目を見張るものがあります。なかでも、帝国書院のオリエンテーションのページは、調べ学習に関してとても丁寧な扱いを感じますし、東京書籍の「テーマをきめよう」で始まり、「調べる まとめる 発表する」という流れは、学び方を学ぶという点でわかりやすいと思いました。

ひと通り、全員の意見が出そろったと思います。私の方で、今、印をつけながら伺っておりますと、8者とも何らかのご意見がでて、それぞれの良さについて語られていると思います。もう少し協議していきたいと思いますので、ご意見をお願いします。

小野委員

今、第一印象から、調べ学習、そして資料についてと協議してきていますが、調べ学習と一言で言いますが、この学習には、不思議に思うこと、推測すること、それらについて調べてみることで、その内容について人にわかりやすく発表することができるということが大切になってきます。こうした学習の中で、子ども同士が関わり合いを持って学びあうことが大切で、そのようなことができる授業構成が重要になります。生徒が自ら、歴史の大きな流れが捉えられたり、まとめられるような、調べ学習についてのサポートができるような観点から協議していくとよいと思います。

平岡委員

章末のまとめで年表や地図を使って歴史の流れや位置関係が整理できる面で、日本書籍新社が好感持てます。

川島委員

藤沢の子どもたちの実態として、主体的に調べ学習に取り組むことが多いようなので、実際に地域を調べるという点で見ると、地域を調べる方法が具体的に書かれている点で、前にも言いましたが東京書籍は具体的な事例を示してわかりやすいように思います。また、日本文教出版も「身近な市や町から」ということで地域を扱っていますし、教育出版も「ご近所調査隊」というコーナーで地域を調べていく方法を具体的に示して、わかりやすいと思います。

數野委員

私も学び方を学ぶという点で、とてもわかりやすく説明している帝国書院の「オリエンテーションホール」はとても良いと思いますが、東京書籍は、学習方法の提示の仕方に工夫があり、開沼委員長が話されていたとおりわかりやすいと思います。

開沼委員長

ここまで、藤沢の子どもたちの実態を踏まえ、どの発行者の教科書を採用するか、話が進められてきましたが、東京書籍の声が多く、教育出版、帝国書院、日本文教出版、日本書籍新社のご意見も出ています。

平岡委員

先ほど触れなかったのですが、学び方を学ぶという視点が取り上げられている点で私もすばらしいと思っていますので、東京書籍がいいと思います。

小野委員

調べ学習の大切さについては、皆さんの考えと同じです。藤沢の子どもたちが、歴史の大きな流れをつかみ、基礎基本を身に付け、さらに発展的な学習、とくに自ら調べ、学び、関わり合いの中で、多面的・多角的な考えが持てるようになるという目標に照らし合わせたとき、学習のテーマがしっかり明示

があると思います。

川島委員

身近といえば、生徒にとって興味関心のある芸能人やスポーツマンについて取り上げているものがあります。帝国書院は、表紙の裏や本文中に私も知っているスポーツマン、芸能人の写真やアニメのキャラクターが使われておりますのが、特徴であると思います。

数野委員

身近な話題といえますと、最近テレビや新聞でも取り上げられています竹島や尖閣諸島、北方領土についての記述がどうなのか調べてみました。北方領土についてはどの教科書でも取り上げられ、歴史的な背景についても記載がありますが、最近テレビや新聞でも取り上げられている竹島と尖閣諸島を扱っていますのは、東京書籍、大阪書籍、扶桑社の3者だけでした。

また、学習指導要領の公民的分野の目標に「国際平和の実現」があり、そのためには「領土、国家主権、主権の相互尊重などを踏まえて理解させること」とあります。各発行者とも我が国の領土だけでなく、自衛隊や、国旗国歌等についても言及しています。

平岡委員

教育出版は「ともに暮らす」といった視点で、視覚障害者のための点字の入った防災マップや、外国人のための四つの言語による防災マップが表紙裏にありました。身の回りのいろいろな物に点字を見かけることが多くなり、バリアフリーという言葉もそのまま使われることが多くなりました。また藤沢市にも多くの外国籍の方がいらっしゃいます。これからは「ともに生きる」という教育出版のサブタイトルが大事な視点になってくるように思います。

開沼委員長

生徒が興味関心を引くであろう、身近な社会的事象や話題についてご意見をいただきましたが、それらを含めまして「生徒にとって適切な課題を設定しているか」という観点でご意見をいただきたいと思っています。

小野委員

帝国書院は導入部分に「やってみよう」という具体的な投げかけがあります。考えるだけでなく、自分で調べたり、作業したりすることにより解決していく課題がたくさん詰まっています。その中に、「環境家計簿」があります。温暖化や京都議定書についてもいけないに取り上げていますが、実際の生活で二酸化炭素の排出量を計算し、自分の生活を見直すきっかけにすることは「地球規模で考え、足もとから行動する」上でとても重要なことだと思います。

川島委員

多くの教科書が1時間見開き2ページという設定になっており、学習の見通しがつきやすい構成になっています。その中で、教育出版は各タイトルの下に課題を投げかけています。学習の見通しを持つことは、内容の理解につながります。

平岡委員

東京書籍にも生徒に適切な課題が設定されています。「公民スキルアップ」という、ページ半分ほどの課題ですが、「マナー川柳を作ってみよう」や「新聞を読もう」といった手軽にできる課題を全部で14カ所に配置し、本文のテーマにすんなり入っていける工夫がされています。

開沼委員長

他にご意見はありますか。

これまでのご意見では、帝国書院、教育出版、東京書籍が多く出ていますが、次に、基礎基本という

観点でご意見をいただきたいと思います。確かな学力を育成するためには基礎的・基本的内容を定着させる必要があります。ご意見をお願いいたします。

川島委員

教育出版は各章の終わりに学習のまとめがあります。問題形式で作られており、キーワードがあり、とてもわかりやすくまとめられています。東京書籍も、章末に学習のまとめのページがあり、重要語句を自分でまとめていくという形式を取っています。また、学習の振り返りを行うことで、何がわかったか、どこがわからなかったか自分で気づくことができるというつくりになっていることも評価できます。

小野委員

さきほど帝国書院の「やってみよう」について、生徒にとって具体的で適切な課題が示されているという意見を述べましたが、この「やってみよう」は、学習のふりかえりにも使われていて、作業を通して重要な語句のまとめができていく構成になっています。基礎的基本的なことから、授業で習うことはもちろんですが、自分で学習する、いわゆる自学において定着が図られます。

數野委員

私も帝国書院の教科書は「社会のワンシーンから」や「やってみよう」といった課題がたくさん取り上げられていますし、「いまを見る目」などといったコラムは他の教科書に比べて断然多いという点で引きつけられますが、やや雑然とした印象があります。あれもこれも盛り込んでみたいという気持ちは、解らないではないのですが、生徒が授業で使うということと、復習として家庭で学習するという二面から考えますと、使いにくいような気がいたします。そういった意味を考慮しますと東京書籍はすっきりしたつくりになっているように感じます。

川島委員

追加したいのですが、教育出版も構成から考えると、見やすくわかりやすいつくりになっていて、生徒は使いやすいと思います。また、教育出版と東京書籍は、学習資料に載っている日本国憲法に、とてもいい「ことばの解説」があります。

開沼委員長

私も教科書の構成や、課題の設定、基礎基本の定着の工夫などといったさまざまな観点から教科書を見て、東京書籍と教育出版が良いのではないかと思います。

みなさんのご意見をお聞きいたしますと、東京書籍と教育出版の2者のご意見が多いようです。協議した観点以外の要素も含めまして、総合的なご判断で、どの発行者のものを採択していくか、意思を確認したいと思います。ご意見をお願いします。

平岡委員

私は藤沢の生徒に合っているのはどの教科書かという観点から考えてみました。

藤沢の子どもたちは、知識欲が高く、総合的な学習のおかげで調べ学習の意識も高いので、東京書籍のように、体験と知識のバランスのよい教科書が適しているのではないのでしょうか。

小野委員

確かに平岡委員のおっしゃる通り、東京書籍の教科書は、生徒が自分で学習していくことを意識して作られており、生徒にとって使いやすい教科書ではないのでしょうか。そのような意味でわたしは東京書籍の教科書を推します。

川島委員

私も東京書籍が良いと思います。

數野委員

工夫がされていて良いと思いました。

小野委員

今、みなさんがおっしゃるように学習意欲をいかに持たせるかという点は学校の先生方も一番気を遣っているところだと思います。特にこの教科は、「おもしろそうだな」「やってみよう」と感じさせることは何より大切で、この点では、各発行者とも意識して編集されていたと思いました。

開沼委員長

そうですね。どれも工夫されていましたが、特に、学校図書が、作業や実験・調査等の課題が多く設定されていて、子どもたちが興味を持って取り組めるのではないかと思います。

平岡委員

私は、東京書籍の導入部分で、見開き1ページで、ワークシート形式になっていて、体験や操作的な活動を通して、その章の学習につなげられるように工夫されていて、とても使いやすさを感じました。

開沼委員長

今までのところ、学習意欲を持たせる導入の工夫という観点において、お一人ずつご意見をいただきましたが、啓林館、教育出版、学校図書、東京書籍の4者について様々な工夫があり、よかったということでもよろしいでしょうか。

それでは、数学の学習が楽しく進められ、基礎・基本がしっかり身につけていくことはとても大事な点だと思いますので、この点についてのご意見をお願いいたします。

平岡委員

私は、教育出版の章末にある「学習のまとめ」がとてもいいなと思いました。その章で学習した基礎・基本的なことを1ページにまとめて整理してあり、学習内容を確認できるように、穴埋め式やチェック欄があり、わかりやくまとまっていたと思いました。

數野委員

基礎・基本の点から見ますと、私は教育出版と東京書籍がよいと思いました。平岡委員のご意見の他にこの2者は、基本的な解答の代表例を「黒板形式」でわかりやすく示し、繰り返しの練習問題もたくさん用意されていて、基礎・基本の定着が図れるのではと思いました。さらに、例題の後に「たしかめ」のコーナーが設けられています。基本的な内容を確認した後に問題練習に進めるように構成されているところが、生徒にとって取り組みやすいように感じました。

小野委員

私も東京書籍について同じように感じました。また、啓林館の例題に学習のポイントが書かれていて、一目で何を学習するのがわかるようになっている点は大変いいなと思いました。章末にある「基本のたしかめ」で、学習した内容が身につけているかを確認できるように、学習した項目とページが示されていて使いやすいなと思いました。また、本文中にも、復習のポイントを示してあり、繰り返し学習しながら基礎・基本が身につくよう工夫されていてとてもよいと思いました。

開沼委員長

この観点について他にございませんでしょうか。

先ほどの学習意欲の観点と、ただ今、ご意見をいただいた基礎・基本の定着という観点を通して、東京書籍、教育出版、啓林館のご意見が多いようです。

他の観点ではいかがでしょうか。

小野委員

数学教育では、数学の知識や技能等を身につけさせるとともに、より広く事象を数理的にとらえ、考

察する能力を高めながら、数学的な見方や考え方、処理する能力の育成を図るといったようなねらいが学習指導要領にあります。数学的な見方や考え方のよさを味わうことができるようにするためには、学ぶ過程で、数学的な見方や考え方を使うことによって、能率的に処理できたとか、簡単に表現できたとか、事柄がすっきり分かるようになったとか、そういう機会を多く設けてあげることが必要です。見方や考え方の育成という点から教科書を見てみると、東京書籍と教育出版で、各学年で多くの課題学習が設定されていました。数学的な見方や考え方のよさを感じ取れる教科書として、優れているなと思いました。

数野委員

数学は、単に問題を解いて答えを求めるということだけでなく、自ら調べて判断したり、ねばり強く考えたり、考えたことを説明したりするといった思考力や表現力を養う教科だと思います。今、小野委員が話された課題学習について、私も注目しました。県の調査結果にも示されていましたが、比較的多くの課題学習を取り上げていたのは東京書籍と教育出版で、市の調査資料の中でも評価されています。

川島委員

私も、学習した内容を深めたり広げたりできる課題が多く用意されている東京書籍と教育出版に魅力を感じました。審議委員もふれていましたが、特に私は、教育出版のチャレンジコーナーが、大変、効果的に課題学習が取り上げられていて、生徒たちが学習を進めながら、豊かな発想の広がりや数学のおもしろさを実感できるように設定されていて、とてもいいと思いました。

開沼委員長

新たに、考える力の育成といった観点でご意見をいただいておりますが、これに関連した内容で他にございませんでしょうか。

平岡委員

私も、学習を進めていく時に、学習内容に関連のある歴史的な話や文化的な話が取り上げられている教育出版の数学ミニ辞典やチャレンジコーナーが、生徒の興味や関心を高めたり、考える力を育てたりするのに有効であると思いました。

小野委員

課題学習の取り扱い方について、東京書籍も、量や内容とも豊富に設定されていましたが、教育出版は、生徒が授業で学んだ内容や考え方をさらに深められるような課題が多く設定されていました。これは、審議委員会の際にも述べられていましたが、藤沢の生徒たちは知的好奇心が強いということですから、必要に応じ、取り組めるといふ点ではふさわしいのではないかと思います。また、巻末にある課題は、1ページあるいは見開き1ページになっていて、すっきり見やすく使いやすいなと思いました。

開沼委員長

他にご意見はありませんか。

これまでのご意見を伺っておりますと、教育出版が、藤沢の生徒にとってふさわしいように思います。私もみなさんのご意見と同じように、これまで協議してきた観点の中で教育出版が優れているのではないかと思います。

それでは、数学は、教育出版ということでご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

開沼委員長

それでは、数学は、教育出版を採択することといたします。

午前11時10分 休憩

まず、啓林館ですが、発展教材で身近なものを扱い、混ぜると危険なものに対する注意説明もしっかり書いてあります。学校図書も胃腸薬やチョークなどを使った気体の発生などを扱い、生徒の自由研究の意欲を高める工夫をしています。大日本図書では、ヘリウムやネオンなどあまり馴染みのない気体を取り上げ、それらが身の回りでどんなことに役立っているかを説明しています。目に見えない気体に対するよいアプローチの仕方を示唆しています。

平岡委員

地球温暖化が問題になっていますよね。私はエネルギー資源の取り扱いについて、各発行者を比較してみました。大日本図書は原子力発電について使用済み核燃料の安全管理について強く主張しています。また啓林館が原子力・火力・水力のそれぞれについての課題や問題をしっかり生徒同士で話し合わせる工夫がされている点が良いと思いました。

川島委員

2002年の小柴博士と田中耕一さんのノーベル賞ダブル受賞は、日本国民に大きな希望を与えたと思うのですが、これまでの日本人受賞者をどう扱っているのかを比べてみました。科学分野での受賞者は9名いられますが、その研究の中身まで一番しっかり取り上げているのは学校図書でした。大日本図書も全員の顔写真入りで扱っています。藤沢では総合かがく展の開催など、理科教育に力を入れていますから、特に将来ノーベル賞を受賞する市民を輩出することを希望するものです。

開沼委員長

川島委員から総合かがく展のお話がでましたが、私も毎年かがく展の見学を楽しみにしております。各発行者の巻末には自由研究に関する資料がたくさん載っています。

特に大日本図書、啓林館の資料が豊富で内容も充実しているように思います。

大日本図書・学校図書・啓林館の意見が多いようですが、もう少し、内容についてご意見をお願いします。

小野委員

大日本図書に藤沢市の太陽光発電パネルが写真で掲載されています。ただ、どの発行者も環境問題についての説明は、たいへん丁寧に扱われていると思います。

平岡委員

環境関係の科学コラムや取り上げている写真などからは、啓林館が一番力を入れているように感じます。例えば巻末資料にある循環型社会をつくるためのリデュース・リユース・リサイクルなどは環境問題を扱うのに適した切り口だと思います。

川島委員

理科の授業に関心を持たせる工夫のひとつに、IT技術の扱いがあると思います。この点、各発行者はどれも力を入れています。中でも、情報技術の説明については啓林館が詳しいと思いました。

開沼委員長

他には何かご意見はありませんか。

數野委員

私は、大日本図書と啓林館が、写真や図版の見やすさ、発展の内容の適切さを含め良いと思います。二者択一ということになりますと、総合的に見て、啓林館が優れているのではないかと思います。

川島委員

私も、同感です。

平岡委員

示、その例を簡単に説明し、「検索のキーワード」というところで、それに関する説明がある教科書のページを示しています。

小野委員

理科の第2分野では、学習指導要領に謳う「自然への畏敬の念を育てる」ということに関わって、環境教育や防災教育の部分で発行者の主張が読みとれます。

開沼委員長

私はこの点では啓林館がよいのではないかと思います。全体の編集で環境教育に力点を置いている様子がよくうかがえます。上巻、序の部分は「環境とは何だろうか」という問いから始まって「生物どうしのつながり」へと発展します。そして、下巻の「自然と人間」の単元で結んでいますが、「自然と人間」では、なぜ“自然を大切にしなければならぬか”という説明がとても丁寧です。最後に「人間は自然の中で生かされている存在である」と締めくくっている点などが他の教科書とは違って素晴らしいと思いました。

他にはいかがでしょうか。

平岡委員

私は、学校図書が、絶滅に瀕している自生のサクラソウを例にあげて、自然界が生物同士のかかわり合いによって支えられていることを説明しているところが印象的でした。

また、啓林館が大きな写真や説明でニッコウキスゲの咲く尾瀬をとりあげ、「かけがえのない自然」を教科書全体のテーマに掲げているのが印象的でした。全体的に、環境問題に関する最新の情報が幅広く取り上げられており、編集者がかなり力を入れているように思います。

開沼委員長

他には何かございますか。

小野委員

啓林館は、第一分野でも原子モデルのカードがあったのですが、第二分野ではスペースビューという立体工作の付録がついています。これは、内惑星の満ち欠けや四季の星座が移り変わる理由などを楽しく学習できるものです。工作の好きな生徒には興味関心が高まると思われます。第一分野では、この発行者が採択されました。第二分野でも、同じ編集方針の教科書にそろえた方が生徒も先生方にも使いやすいように思います。

數野委員

理科の授業では、第一分野・第二分野の教科書を交互に使って指導します関係から、編集方針や学習の進め方が同じ教科書であった方が生徒や先生方にも戸惑いがなく、私は、同一出版社の啓林館の教科書にした方がよろしいのではないかと思います。

川島委員

先ほど私は、啓林館は科学的な方法で問題解決していく構成が他社よりも明確に記されている、と申しましたが、これは第一分野、第二分野共通する優れた点だと思います。この点からも、第一分野、第二分野を同じ発行者にそろえるメリットがあるように思います。

開沼委員長

その他いかがでしょうか？よろしいでしょうか？

皆様のご意見は、ほぼ出尽くしたように思われます。ご意見をお伺いしますと、啓林館のご意見がかなり多かったようです。

理科の第二分野については、啓林館ということで、ご異議ありませんか。

數野委員

掲載作品の豊富さと同様に作品の大きさという点では、可能な限り大きなサイズの作品を載せる方が迫力があり、子どもたちが受ける印象も一段と強いと思います。その点で、B5サイズと小さい光村出版は少し気になります。審議委員会で、保護者の委員さんから「あまり重いものは…」という話しが出されていましたが、光村出版は、他の2者に比べると若干軽いようではあります。中学生でありますので、その点にはあまり考慮しなくても良いのではないかと思います。やはり掲載作品は大きい方がベターだと思います。その点、日本文教出版は、各教科書の表紙裏に2ページ見開きで大きな作品がドンと掲載されていて、インパクトも強烈であり、とてもいい感じです。

平岡委員

私は掲載作品の色彩について各者比較してみたのですが、3者の中では、日本文教出版が一番きれいに、実際の色彩に近く表現されていると感じました。これも教科書を参考にして色彩を学び、活動をしていく生徒達にとっては、重要な点だと感じました。

開沼委員長

私は、作品の説明の部分も楽しく読みました。どの教科書も鑑賞領域の充実に向けて作家の言葉やインタビューのページなどを設けて、工夫がなされていると思います。その中で、光村は解説が充実していて、読み物としてはとてもおもしろかったのですが、子どもたちにとっては、ややむずかしい部分もあるのではないかという印象を持ちました。それに対して、日本文教出版は、簡潔な文章で特徴を捉えて説明されていました。文字も3者の中で一番大きく、とても読みやすく感じました。

平岡委員

少し視点を変えて、作品の取り上げ方ということをお話しさせていただければ、開隆堂は小学校の図画工作科との連携を意識して、身近な材料や行事など、学校生活と結びついた活動を大切にしていると感じられました。日本文教出版は、生徒の興味関心に寄り添った題材を集めていると感じました。また、その中で本市の善行中学校の美術部が取り組んだ作品が「学校や地域への発信」という部分で取り上げられていることは、とても素晴らしいことだと思います。

川島委員

私もその事実を聞いて、よく見ますと、活動している善行中学校の生徒達も写真に載っていて、本市の生徒達にとってはとても励みになることだと思います。

小野委員

美術科の目標には、「創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情と感性を育て、基礎的能力を伸ばすとともに豊かな情操を養う」ことが重要視されています。基礎的な能力を身につけた上で、意欲を持って創造的に取り組んでいける生徒を育てていくことが、大切なんですね。学習の主体は生徒達なので、教師にとって指導しやすいことはもちろんとして、生徒にとっては、主体的な創作活動を進める上で、大きな支援になるような教科書がよいと思います。そう言った点で、生徒や作家の作品のバランスだけでなく、領域面でも表現・鑑賞の扱いの面でも、広くバランスよく取り上げられている日本文教出版の教科書がよくできていると思います。

開沼委員長

皆さまからのご意見をまとめますと、日本文教出版の声が多いようですが、いかがでしょうか？
ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

それでは、美術は、日本文教出版を採択することといたします。

開沼委員長

次に、技術・家庭科の技術分野の協議に入ります。発行者は2者です。
ご意見をお願い致します。

數野委員

教科書を使う時に必要な箇所を探すことを想定して、目次に注目しますと、東京書籍は、目次の項目がきめ細かく設定されています。また、開隆堂は大きな項目立てになっています。見たいページをすぐに開くことができるという点は、東京書籍の方が使いやすいように感じました。

平岡委員

少ない授業時間で扱うことを考えますと、見やすさとか、メリハリとかはやはり大事になってきます。開隆堂は、大事な語句が黒の太文字で書かれているのに対し、東京書籍は青い太文字で書かれており、色が使われている分、より見やすく工夫されていると感じます。

川島委員

見やすさやわかりやすさという点で言うと、情報分野のワープロや表計算を扱っているページを見比べてみると、開隆堂は実際に実在するソフトウェアの画面を使っているのも、機能の設定や「セル」とか、「列」とかの説明がわかりやすいなと感じました。

平岡委員

私は、ものづくりの分野の、特に作業の部分に注目して見てみました。開隆堂は、作業の説明に写真をたくさん使っており、絵を多く使っている東京書籍よりも、実物を見せるという意味で、役に立つのではないかと思います。ただ、東京書籍の方は、作業で失敗しやすい例が写真でしっかり載せられているんですね。実際に目で見ることで、言葉で説明するよりずっとわかりやすいと思いますので、あえて失敗例を載せた編集方針は評価したいと思います。

數野委員

内容の物づくりの面を見ますと、物づくりの設計から完成までの手順を理解するという点で、作業工程が一目でわかるように工夫されている開隆堂が評価できますが、全体を通読して見ますと、例えば材料の種類などに新しいものを積極的に取り入れているという点では、もちろん先進性という意味で東京書籍の方が意欲的な気がします。

川島委員

私は、情報の分野を特に注意して見てみました。これは、審議委員会の中でも触れられていましたが、データを保存するメディアとして、東京書籍はUSBメモリやスティック型メモリが紹介されているのに対し、開隆堂は、フロッピーディスクやMOが紹介されています。フロッピーディスクが使えないパソコンが増えている中で、学校でパソコンを学んだ生徒が、家でも操作するわけですから、新しい情報が紹介されていることは、やはり大事な点かなと思いますし、その意味では東京書籍が優れているなと感じました。

開沼委員長

最近、大人に限らず小・中学生もパソコンでのメールやチャット、インターネットなどを日常的に使っていますし、同時に様々なトラブルが起きています。技術の情報の分野では、ただ単にパソコンの使い方を教えるのではなく、あわせて、ルールやマナーを教えることが大切です。両者とも、その部分にはしっかりとページをさいて説明していますが、東京書籍は、マナーに関する記述が色々なページにちりばめられていて、常に生徒の目に触れるようになっています。ルールやマナーというのは、1回勉強すればそれでよいというものではないので、いつも意識するように構成されている東京書籍の編集の

学校の中でお弁当の販売をしている所もあります。でも、中学生になったらお弁当は自分で作っても良いんだよ、という意味で、これらの題材が載せられているというのは、今の中学生事情をしっかりと把握した上での編集だなと感じました。両者の考え方はタイトルにも出ているなと思ったんですが、東京書籍は「わたしたちの食生活」なのに対し、開隆堂は「食生活を自分の手で」になっていて、より積極的に関わろうという意識で編集されています。学習指導要領の目標に「生活の自立・・・」とありますので、その部分を色濃く出しているんだと思います。

平岡委員

両者の違いがはっきり出ているなと感じたところがあります。東京書籍は食品のゴミをリサイクルして肥料にしている様子を取り上げていますが、開隆堂はゴミを出さないようにするために、余った食材を無駄なく調理する例を載せています。どちらも環境問題との関連では重要なことですが、中学生が積極的に関わることができるという点では、開隆堂の考え方の方が良いような気がします。

開沼委員長

「生活の自立と衣食住」の領域では開隆堂のご意見が多いようですが、「家族と家庭生活」についてはいかがでしょうか。

數野委員

視点を变えて、子どもの成長と親子関係についてみますと、子どもが中学生ぐらいになり思春期を迎えるようになりますと、親子の関係にも変化が出てきてお互いに戸惑うことが多くなりますが、中学生と家庭との関わりという点では、東京書籍はロールプレイングを交えながらさりげなく親の気持ちを理解するように構成されていて、現在の私のような、元親といえますが、親のOBが見ましてもうなずける企画に思います。

開沼委員長

私は、地域との関わりや男女共同参画・NPOなど、これからの子どもたちに意識をもって考えてもらいたい内容については、開隆堂の方が多くのページを割いて丁寧に扱っています。また、東京書籍にもありますが、開隆堂の方が、バリアフリーやボランティア活動など、より幅広く扱ってありました。

川島委員

最近、ペットボトルやジュースの缶、パソコンにまでいろいろなマークが貼ってありますよね。安全や環境や品質を表すマークなんですけど、ゴミの分別をするにもマークの意味が分からないと困るわけです。開隆堂は、このマークが一覧で大きく扱われており、見やすいと思います。特に生活に密着している部分だけに大事なことだと思います。

小野委員

ところで、この数年、生徒の自宅に友達の電話番号を聞き出す不審な電話がよくかかるようになりました。また、携帯電話に関わるトラブルも全国的に増えています。悪質商法も人ごとではありません。そういう社会情勢も踏まえて、さすがに両者とも中学生の消費者生活という点では非常に力を入れておりとてもよくできていますが、開隆堂の方は、今言った電話番号の聞き出しに対する注意もちゃんとあるんですね。藤沢でも多い事例なので、これが教科書に載っているといいですね。

平岡委員

私は、部分的には東京書籍も捨てがたいのですが、全体を通して見てみると、開隆堂の方が今の中学生の視点に立って考えられており、自らが積極的に参加する視点で編集されているように思います。学習指導要領の目標にある「課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる」という点をしっかりと踏まえており、開隆堂の方がふさわしいのではないかと感じています。

小野委員

昨年度実施された県の学習状況調査では、英文を「書く」ということが、あまりできていないという結果が出ていました。コミュニケーションももちろん大切ですが、やはり「読む」「書く」ということもおろそかにすべきではないと思います。特に「書く」ことについては本文とは独立してページを設けている教科書が多いようです。東京書籍ではホームページ、日記、メールなど生徒に身近な英文を書くようになっていて生徒の興味を引くのにいいと思います。三省堂は全てのレッスンの後にThink about it. というコーナーがあって、単に文法の練習でなく、自分の感想や意見を書くようになっていますが、このような学習は英文を書く力を育てる上でとても大切だと思います。

開沼委員長

私も「聞く」「話す」だけでなく、「読む」「書く」の4つの技能がバランスよく伸ばせることが大切だと思います。どの教科書も、1年生は、ほとんどが会話文で、読み物は最後にある程度です。たとえば開隆堂は、本文は会話文が中心で、本文の内容に関する読み物が、最後にまとめてついています。

これに対して、学校図書と三省堂は読み物が、本文と同じように扱われています。こちらの方が、授業の中できちんと扱えそうでよいと思います。

これまでのところ、東京書籍、学校図書、三省堂についてのご意見が多かったようですが、他にはいかがでしょうか。

數野委員

英語の基礎基本は、どの生徒も簡単な会話ができる、基礎的な単語や文の読み書きができることだと思います。3者の中で学校図書と三省堂が編集の基本方針に、英語の基礎学力を育成することを謳っていますが、三省堂は、単語が「基本語彙」「理解用語彙」「話題用語彙」の3段階に分けて示されていて、必ず覚えなければならない語がわかるなどの工夫がされており、どの生徒にもきちんと力がつく仕組みになっています。学校図書では、「基礎基本の習熟により、英語の基礎学力を伸ばす」という基本方針を掲げています。両者を比較しますと三省堂と思います。

川島委員

三省堂は、原爆で亡くなった佐々木貞子さんの話や、ケビン・カーターの「ハゲワシと少女」、アフリカの飢餓の問題も扱っています。また、緒方貞子さんの言葉で本文がしめくくられているのも印象的でした。このような問題を知ることは、将来世界の中で活躍する人となるために是非必要であると考えますので、三省堂がよいと思います。

平岡委員

藤沢市内の小中学校には、外国籍や帰国の児童生徒も多いと伺っています。国際理解という観点からも、様々な国の文化や生活を知ることが、大切だと思います。その点で、どんな国を取り上げているか調べてみましたが、三省堂は欧米諸国だけでなく韓国、中国やモンゴルなどのアジアの国々、タンザニア、スーダンなどのアフリカの国々を取り上げていて、バラエティに富んでいます。本文の中には、その国の美しい写真があるので、「この国に行ってみたい」という夢を持ったり、英語を勉強するための目的を持たせることができ、とてもよいと思います。

小野委員

本市にはアメリカ、カナダ、中国、韓国に姉妹都市があり、国際都市を目指しています。国際社会に生きる生徒たちにはコミュニケーション力を是非身につけてほしいと思っていますが、コミュニケーション力とは単に英語が流ちょうに話せることではなく、その内容がより大切であると思います。三省堂、学校図書ともに広く国際社会に目を向けさせるような題材が多いのですが、中でも三省堂は地球的な課

が書かれてありました。そこでいう「あまり高額なものに偏らないこと」ということに留意いたしますと、この一覧は妥当の範囲でよろしいと思います。

開沼委員長

私も、価格の上限については、今回の一覧の程度は問題ないと考えていますが、他の委員の皆さまはいかがでしょうか？ ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

開沼委員長

それでは、価格についての協議を終えたいと思います。

次に、新たに教科書としてふさわしいとして、「審議結果」で「新」という記号が付されている27冊の図書については、いかがでしょうか。何かご意見はありますか。

川島委員

27冊についてそれぞれ実際に私も手にとって見ましたけれど、どれも問題ないと思いました。

小野委員

私も27冊全て、見て調査研究したわけですが、次年度実際に指導をする子どもの実態を想定して、養護学校と特別指導学級設置校の方で、慎重に調査研究していることもあり、どの本も、五感を使った理解や日常生活との関連性を重視する指導方法とマッチするものであると確信しました。

開沼委員長

私も、同様に思いました。良い本ばかりだと思いました。他にご意見はありますか。

ご意見がないようですので、新規図書についての協議を終えたいと思います。

それでは、全体を通して、何かご意見等ございませんか。

ご意見がないようですので、この間に協議されましたように、新規図書を含めまして、採択することにいたしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

開沼委員長

それでは、「平成18年度使用 藤沢市立養護学校 及び 特別指導学級用 教科用図書」については、只今の協議のとおり、「平成18年度使用 藤沢市立養護学校 及び 特別指導学級用 教科用図書についての審議結果」にあります、すべての図書を教科書として採択いたします。

これで、前回の小学校用教科書を含め藤沢市立学校で使用する平成18年度使用 教科用図書について、全ての採択が終了しました。

以上で本日予定いたしました協議する案件は、すべて終了いたしました。

それでは、次回の定例会の期日を決めたいと思いますが、

8月19日 金曜日 午後2時から、場所は、東館2階 教育委員会 会議室において開催することにご異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

開沼委員長

それでは、次回の定例会は、

8月19日 金曜日 午後2時から、場所は、東館2階 教育委員会 会議室において開催いたします。

以上で、本日の日程は、すべて終了いたしました。ありがとうございました。

どうもお疲れさまでございました。

午後0時55分閉会

この会議の結果を記載し、相違ないことを確認する。

藤沢市教育委員会委員長

藤沢市教育委員会委員

藤沢市教育委員会委員